



食べて応援！地産地消を促進するロゴマークを作成しました 農業者、飲食店、市民など、まちぐるみで取組を進めます

生駒産農産物の地産地消を推進し、消費拡大を目指して、市内で生産された農産物と、その加工品を対象に使用できる「生駒産ロゴマーク」を 3 月に作成しました。農業者や飲食店などに活用してもらい、市内産野菜を PR し、販路拡大につなげる予定です。



▲生駒産ロゴマーク

■ロゴマークの概要

◇ロゴマークに込めた思い 少量でも多彩な品種の野菜を栽培し、いろいろな色や大きさの農産物に出会える生駒の農業をイメージして、たけまるくの周りにさまざまな色合いや大きさで円を配列しました。市民や農業者、飲食店、販売店など、生駒産農産物に関わる皆さんの縁がたくさん実るようという意味も兼ねています。

◇使用できる人

- ・申請不要で使用可…市内の農業者、いこまレストラン※に協力いただいた飲食店
- ・申請すれば使用可…飲食店・農産物販売店・農産加工業者等、生駒産農産物を応援してもらえる事業者

◇活用状況(5月10日時点) 8事業者他

※いこまレストラン…生駒市内の飲食店と生産者をつなぐイベントです。飲食店には生駒産野菜を生かしたメニューを作ってもらい、参加者にモニターとして試食していただき率直な意見を伺います。また、生産者と飲食店、消費者が、生駒の農業についてみんなで語り合うワークショップも同時に開催。いっしょに生駒の農業を盛り上げていきます。

■ロゴマーク関連の他の取組

◇品評会で優秀な成績を収めた農業者用の「生駒野菜の匠」ロゴマーク(右図)も作成

◇ロゴマークを活用している事業者をまとめたマップをウェブ上で作成

◇いこまレストランで紹介したメニューなど、市内産野菜を活用したレシピを提案・公開

◇note(株)が好事例として紹介！市公式 note で旬の情報を配信中



note はこちら▶

■本市の農に関する取組

◇市民農園や遊休農地の活用、いこまファーマーズスクール(半農半X)などにより、リタイア層だけでなく、「農」のあるライフスタイルを求める若い世代の潜在的なニーズを掘り起こし、市民が農と親しめる環境づくりに力を入れています。

◇市内農家と市内飲食店をつなぐ「いこまレストラン」の開催や移動販売などを各自治会で開催するなど、販売流通の促進と消費者向け情報の強化とともに市内での食料自給率を上げ、市内農家に対して持続性の強化を図っています。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市農林課(課長 吉岡) ☎0743-74-1111(内線 2150)